

平成27年度 燕市生徒指導部 活動報告

部長 高田 容夫

1 研究主題 子どもが主体的に生活を向上させるための工夫

2 研究の概要

(1) 講演会 (第2回部会)

- ① 日時・会場 6月3日(水) 15:15～16:45 吉田小学校
- ② 講師 燕市立燕西小学校長 齊藤 毅 様
- ③ 演題 Q-Uの分析と活用
～分析により気になる子ども(『侵害行為認知群』と『学校生活不満足群』)に対する支援方法や有効な実践例～
- ④ 内容
 - 1) 講義 分析と対応の方法・担任としての指導者チェック
 - 2) 演習 分析表から考えられることをグループで話し合う
 - ・ 学級の大まかな型を捉える
 - ・ 項目に従って学級の様子を書き出す
 - ・ 孤立児童 気になるグループの抽出
 - ・ 学年の連携・保護者への説明
 - ・ 担任のリーダーシップの取り方
 - ・ 授業の進め方・学級活動

(2) 各校の取組の成果と課題 (第3回部会)

- ① 日時・会場 12月2日(水) 15:15～16:45 吉田小学校
- ② 各校の実践発表 研究主題を受けた各校の取組と成果と課題
 - ・ ソーシャルスキルを取り入れた全校道德集会
 - ・ 学級力・学習スキルミーティング
 - ・ 児童が主体的に活動するあいさつ運動
あいさつハイタッチ・あいさつ駅伝・あいさつ名人カード・あいさつ広げ隊
 - ・ 学校行事や清掃、特別活動と連携した異学年活動
 - ・ 年間を通したQ-Uの活用
- ③ 質問・意見・情報交換
- ④ 指導 燕市立小池小学校 高田 容夫 校長

現代の子どもの良さとして、『一人一人が平等という意識が浸透』し、誰に対しても抵抗なく相手を受け入れる面や、臆することなく人前で話すことができるという面が見られる。しかしこのような長所が、役割意識のなさや人の話を十分聞かず平気で自分を語るという社会性のなさにもつながっている。社会性を育てるためにも、今後、生徒指導が益々重要となっていく。

また、「学び」と同様に生徒指導もアクティブに取り組む必要がある。異学年活動や特別活動、総合的な時間などで、人間関係を深め信頼関係を構築していくことが大切である。こうしたことが、子ども自身の主体的に生活を向上させようとする意識につながっていく。

3 成果と課題

第2回の部会では、Q-Uの具体的な分析の手法を学ぶことができた。部員が研修で得たことを各校に戻って生かすことが大切だと考える。

第3回の部会では、各校の生徒指導部や生活指導主任としての具体的な取組の発表があった。様々な取組の情報を交換したり意見を交流したりすることで、これからの自校の生徒指導を推進する新たな視点が生まれた。